



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
メール: jaera-homepage@elv.or.jp HP: http://www.elv.or.jp/

広報部会インタビュー企画「我々の未来をどう創るか」第3回

日本自動車リサイクル
部品協議会 会長

清水信夫氏インタビュー

本年度の広報部会インタビュー企画「我々の未来をどう創るか」第3回目となる今号では、日本自動車リサイクル部品協議会の会長、清水信夫氏をお迎えして、同協議会を立ち上げるに至った経緯・歴史からリサイクル部品の今後、次世代に向けたメッセージまで、さまざまなお話を伺いました。



[※インタビュー本文中敬称略]

日本自動車リサイクル部品協議会の歴史

—— 業界が大きく変わろうとしている今こそ、業界の歴史を振り返って新たなヒントを得る……「温故知新」ということで、清水会長に大いに語っていただきたいと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

まず、日本自動車リサイクル部品協議会（以下「リ協」）を立ち上げた経緯・歴史について教えてください。

清水 平成3年～12年にかけて日本経済の低迷が続いた「失われた10年」と言われる時期の平成7年にリ協は誕生し、活動してきました。

最初に全国団体を作ろうとしたときには、すでに自動車解体組合と中古部品組合等があり、業界のために努力した先人たちを度外視して若者の情熱だけで進めてしまったのが原因で失敗に終わりました。

目次

巻頭言	1
広報部会インタビュー企画 「我々の未来をどう創るか」第3回	
清水信夫氏インタビュー	1
環境省イベントに協力	4
トヨタからのお知らせ	4
小島産業豊橋工場見学	5
ブロック長会議	5
ブロック・地域の活動報告	5
メーカー提供記事【日産】	6
鉄スクラップ最新情報	7
行事予定・お知らせ	8
編集後記	8

巻頭言

先週、自動車再資源化協力機構の方が、当社の見学に来られました。当社は事務所と工場が200mほど離れています。リアルタイムで情報をやりとりするためVPNという仕組みを使っています。例えば、工場で部品が売れると、アイパッドで何がいくらで売れたかを入力します。その情報は事務所でも共有され、仕入れた車がいくらで売れたのかが分かるようになっていきます。ただし、細かい部品はまとめて販売しており、まだまだ改善の余地はあります。色々な会社を見て回って、各社の良い部分を共有化できないか模索しているようです。少しでもリサイクル処理の事務作業が簡略されることを祈っています。

(広報部会 小宮山 敬仁)

清水 次に全国団体を作ろうとしたときには、今ある部品販売グループが出てきて、それをまとめるという形になりました。業界をひとつにまとめなければいろいろな問題が出てくるとというのが分かってきたのです。これが現在のリ協の形につながります。

—— なるほど。

清水 そして、21年前（平成7年）の3月に名古屋市内のホテルで「第1回自動車リサイクル部品フォーラム I N名古屋」が開催され、通商産業省（現：経済産業省）の戒能一成自動車課課長補佐から「供給の安定（ボリューム）」「品質の信頼性（クオリティー）」「価格構造の透明性（プライス）」の3つの重要性を指摘されました。また、戒能課長補佐は講演の中で「リサイクル部品」という言葉を使い、業者たちを「リサイクル部品業」と呼び、「解体業」と「部品流通業」とは別のものでこれらを分離しておくことによってビジネスチャンスの機会損失を未然に防ぐことができる、と話されたのです。まったくこの通りだと思い、我々は背中を押してもらったような気持ちでこの講演が行われた年の11月に「日本自動車リサイクル部品販売団体協議会」（リ協の前身）を設立、団体として入会できる協議会を立ち上げました。その当時の基本事業計画には、戒能課長補佐の理論が集約・反映されています。

日本自動車リサイクル部品協議会の今

—— そのような経緯・歴史があったのですね。それでは、現在のリ協の活動内容について教えてください。

清水 今年10月のリサイクル月間には、自動車リサイクル部品活用推進キャンペーンの一環として日本損害保険協会（以下「損保協会」）からポスター15万枚やチラシ45万枚の無償提供を受け（費用420万円）、日本中古車自動車販売協会連合会（以下、「中販連」）・日本自動車整備振興会連合会（以下「日整連」）・日本自動車車体整備協同組合連合会（以下「日車協連」）などに配布します。これは、リ協の事務局長である長妻さんの活躍によるものです。 (7)

清水 今に至るまで、中販連・日整連・日車協連・損保協会・リ協の5団体がひとつとなり、3省（経済産業省・環境省・国土交通省）へコンタクトを取るなど、積極的に動いてきました。そうして地道に種蒔きをしてきた結果がやっと今につながっているのです。このような大きな結果の裏には、汗をかいている人がいることを知ってほしいですね。

—— リ協が現在取り組んでいる事業などがありますか？

清水 リ協としての事業はしていません。リ協というブランドをPRして、それを受けて個社が努力し、結果として全体が良くなればという考えです。会社によって社員の人数も環境も異なり、一律ではありません。だから、ノウハウをもらって動くのは個社個社。リ協としては、細かなところまで立ち入らないというのがスタンスです。その代わり、リ協としては自動車リサイクル部品活用推進会議等にて、損保協会、参加団体にも「使用済車、全損車両等が我々のところへ入庫しない限り、部品は出てきませんよ」と声を大にして訴えています。

▼昨年（2015年）の自動車リサイクル部品活用推進キャンペーンの概要
<http://www.japra.gr.jp/blog/?p=185> ←クリック！

ネットワークを広げていくには

—— では、リ協の会長として清水さんはリサイクル部品の現状をどう捉えていますか？

清水 リサイクル部品は、量がなければ無理です。そこで「（部品が）ない、ない」というのではなく、ネットワークをもっと広げていくことが大事だと思います。我々はプロショップです。現状はB to C向けに部品を安く売ってしまい、整備業者を飛び越えてしまうから業者さんもインターネットで買うといった悪循環に陥っているように感じます。ネットワークを広げていくには、B to B、同業者間の流通をもっと大切にして、年に1度はその会社さんに訪問するなど継続的に取引をしていただく努力をすべきではないでしょうか。

リサイクル部品のJIS規格

—— E L V 機構が現在策定に取り組んでいるリサイクル部品のJIS規格について、清水さんのお考えをお聞かせください。

清水 リサイクル部品のJIS規格は、作ることが目的であってはいけません。作って終わりではだめなのです。作ってから“使うこと”を目的としなければならない。もちろん品質も大事ですが、昨今の玉不足を考えると、車を集めることが先決だと感じますね。優先順位をあらためて考える必要があるのではないかなと思います。

今あるものをどう料理して稼ぐか

—— 貴重なご意見ありがとうございます。リサイクル部品の今後についてはどのようにお考えでしょうか？

清水 2004年のときに10.97年。その10年後の2014年は12.64年。このように、車の寿命は年々延びています。だから、もっと低年式にシフトしてそこをなんとか開拓していく……低年式だからと言って新品部品が安い車はないのです。商品の価値を高めて取れるものは取って利益を生み出していく、そういった方法を精査していく必要があると思います。また、今後の車の方向性は、間違いなく「ITと軽量化」です。これは我々業界にとっても厳しい状況です。車が変わっていくのであれば、具体的にどう稼いでいくのか考えるのがプロです。プロというのは結果を出すことです。車が全部なくなってしまったわけではないので、今あるものをどう料理するか、それをしっかり考えることだと思います。

業界が強くなるために——「協調」と「競争」

—— 今後、業界が強くなっていくためにはどうすればいいのでしょうか。

清水 ビジネスの基本は標準化と説明責任です。そのためには、業界がまとまらないといけません。これができなければ、下請けになってしまいます。価格決定権が持てなければ、下請けです。以前は我々の業界にも決定権があり、良い商売ができていました。

(7)

清水 これからは、相手が持ってしまうでしょう。なぜなら業界が弱くなり、まとまらないからです。それを防ぐには「協調」と「競争」が大事です。協調とは“共通の利益を見出すための協力”、競争とは“互いに創意工夫して切磋琢磨すること”です。これらができないと、業界のまとまりがなくなり、今後かなりきつくなってくると思います。業界としての協調が第一に必要です。

—— 「協調」と「競争」ですか。競争はわかりますが、協調とは具体的にどのようなことでしょうか？

清水 例えば、「業種認定」です。日本標準産業分類。これにない業種は、業界として社会から認められません。この分類がちょうど見直しとなるとときに、外川先生（熊本大学教授）が日本中の解体業者を調査し、情報を提供してくださり、今日の日本標準産業分類「5423」「自動車中古部品卸売業」ができました。この分類の存在は、我々の業界の社会認知において大変重要です。

今は厳しいけれど面白い時代

—— それでは最後に、この業界に携わる次世代に向けて一言お願いします。

清水 若者はもっと柔軟に、発想を豊かに、そして、新しいものに挑戦してください。まずは行動しなければ何も始まりません。皆さんプロなので、結果を出してほしいです。また、強くなければ優しさは継続できません。利益は強さのひとつだと思います。他人に優しくするためにはまず自分が強くなることが大切で、そのためにトップは人一倍働いて、人一倍頭を使うものなのです。そして、車はITと軽量化でどんどん変わっていきます。それに対してどんな対応を取るか、常に「これでいい」という回答はありません。自分たちが思っている以上に環境の変化は早い、これが現実です。この現実に対応するためにも、先人たちの良いところはどんどん学んで吸収する……、学ぶという言葉は実は「まねる」からきているのです。だから、まずは先人たちの良いところを真似ることですね。今は変化が激しく厳しい時代です。ですが、“変わる”ということは厳しいけれど面白い。今は大きく成長する可能性がある時期でもあるのです。

(終)

環境省の実施する大学生向けイベントで「自動車リサイクル士」が取り上げられました！

ELV機構が環境省主催イベントに協力、自リ士も題材に



環境省が大学生のキャリア形成支援の一環として実施しているイベント「サマートライアル」が8月から9月にわたって開催され、自動車リサイクルをテーマとしたコース(9月7日～8日実施のコース)においてELV機構から資料提供などの協力を行いました。

このイベントでは、30名程度の大学生が自動車リサイクルの現場を訪問しました。株式会社ユーパーツ・有限会社昭和メタル・越谷フエンダーなどといったELV機構会員事業所も訪問先として協力しています。

当日は、解体事業者等の見学の後、自動車リサイクル士やリサイクル部品の活用のあり方などについての政策立案を行うロールプレイングが実施され、参加した大学生らが自動車リサイクル士に関する資料を見て議論を交わしました。業界にあまり馴染みのない若い世代にも、自動車リサイクルの重要性やELV機構の「自動車リサイクル士」の存在を知ってもらう良い機会となりました。

[参考URL : http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g-shared/summertrial.html]

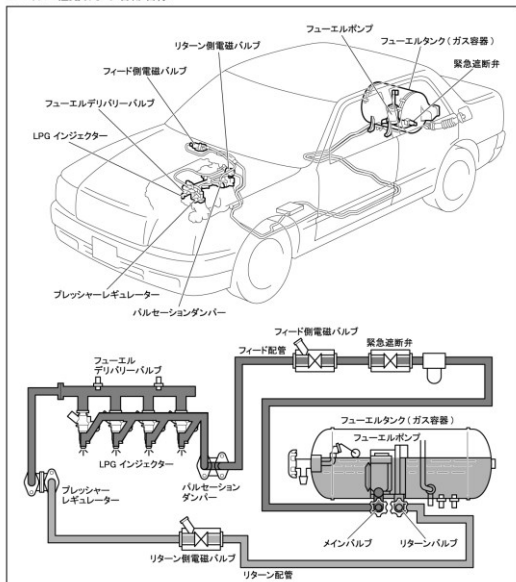
トヨタ自動車株式会社からのお知らせ

<クラウンセダン・クラウンコンフォート・コンフォートLPG>

■対象型式

車名	型式
クラウンセダン	TSS10-CEPFC、TSS10H-CEPJC
クラウンコンフォート	TSS10-AEPDC、TSS10-AEPRC
コンフォート	TSS11-BEPPC、TSS11-BEPRC、TSS11-BEMRC
コンフォート教習車	TSS11Y-BEPDC、TSS11Y-BEMDC

■LPガス経路および各部名称



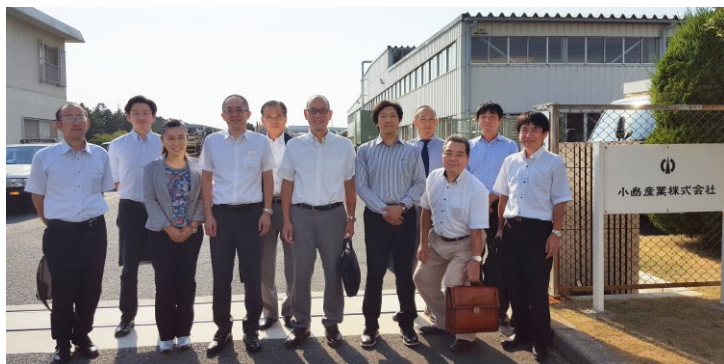
EF I 式LPG車はアイドリング消費を行っても、燃料配管内の残ガスはほとんど消費されません。ガス容器の取りはずしを行う際には、配管内の残ガスを抜き取る必要がありますので、マニュアルをご参照のうえ、適切な作業をお願いします。

マニュアルはこちら↓をクリックしてご確認ください！

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/environment/recycling_based/proper_disposal/

マニュアルの一例

小島産業の豊橋工場を見学 第2回ブロック長会議を開催



9月1日、愛知県豊橋市にある小島産業株式会社豊橋工場を訪問しました。同工場では樹脂バンパーのリサイクルを行っており、特にバンパー表面の塗装を短時間に剥離する独自技術を有しています。原料は交換済みPPバンパーが割合の多くを占め、それを元にペレットが生産され、主に自動車の内装材等に利用されています。

樹脂リサイクルが注目されつつある状況に、使用済PPバンパーの回収ルート拡大といった事業拡大を視野に入れています。これを機会に今後はELV機構の共同出荷事業等を視野に入れ、継続的な情報交換も行っていく予定です。



9月6日、ELV機構会議室（東京都港区）にて「第2回ブロック長会議」を開催しました。天候のため、松田沖縄ブロック長は欠席されましたが、当日は全国各地の7ブロック長が集まりました。自動車再資源化協力機構様のご協力をいただき、適正処理講習会の開催実績など情報交換を行い、その後、本部活動の情報共有や意見交換を実施しました。今期ブロック長会議の方針の一つに「優れた取り組みに関する情報集約と発信」とあります。このテーマについて議論し、「作業効率」「安全」「組織の活性化」に関する情報収集結果を、来年3月の第4回ブロック長会議にて発表することが決定しました。

ブロック・地域団体の活動報告

■ブロック会議開催実績（9月開催分）

開催日	会議名	開催場所
9月 7日	関東ブロック会議	ELV機構会議室（東京都港区）
9月 9日	沖縄ブロック会議	沖縄市農民研修センター（沖縄県沖縄市）
9月17日	中部・北陸ブロック会議	名古屋解体（愛知県名古屋市）
9月17日	九州ブロック会議	サンライフホテル2・3（福岡県福岡市）
9月24日	東北ブロック会議	弘前東栄ホテル（青森県弘前市）

■活動紹介：とっとり防災フェスタへ山陰ELVリサイクル協議会が協力



鳥取大地震から73年目の9月10日、「とっとり防災フェスタ2016」がJR鳥取駅周辺で行われ、多くの市民が体験を通じての災害の恐ろしさや対処法を学びました。

鳥取県や鳥取県内の全市町村と「災害時の支援協定」を締結している山陰ELVリサイクル協議会（会長 西川正克）は、自衛隊や消防士による自動車事故からの救出訓練用の車両を提供しました。救出訓練は、JR鳥取駅前の「風紋ひろば」で行われ、特殊工具を使ってドアを取り外して救助する様子を多くの市民が見つめ、その迫力に驚きの声を上げていました。

西川会長は、「災害は、起きて欲しくないが、万一の備えの為に訓練は欠かせません。今後も訓練車両の提供を行う等、地域との連携をより一層強化していきます。」と話していました。

自動車メーカー提供記事（日産自動車株式会社）

■リサイクルしやすいクルマの設計を推進

▼「ノート」における主なリサイクル対象部品

再生しやすい樹脂を使用した部品

再生利用しやすい部品



再利用または再生されている部品

樹脂として再生できる部品

日産は、リサイクルしやすいクルマを設計し、資源を最大限に有効利用することで効果的な資源の循環を促進する取り組みを行っています。

2001年度に発売した「マーチ」をはじめ、2005年以降の新型車すべてにおいて、95%以上の部品をリサイクルすることが可能となっています。

■解体情報の提供

貴重な資源である銅や鉄などの資源の有効活用とリサイクル推進のため、解体事業者の方々を中心に「使用済み自動車の銅含有部品樹脂部品取り外しのための情報提供」を作成しています。

また、ART^[※]メンバー会社である国内乗用車メーカー5社（スズキ、日産自動車、富士重工業、マツダ、三菱自動車工業）と共同でハーネスリサイクル設計ガイドラインを作成しました。

詳細はARTのホームページをご覧ください。

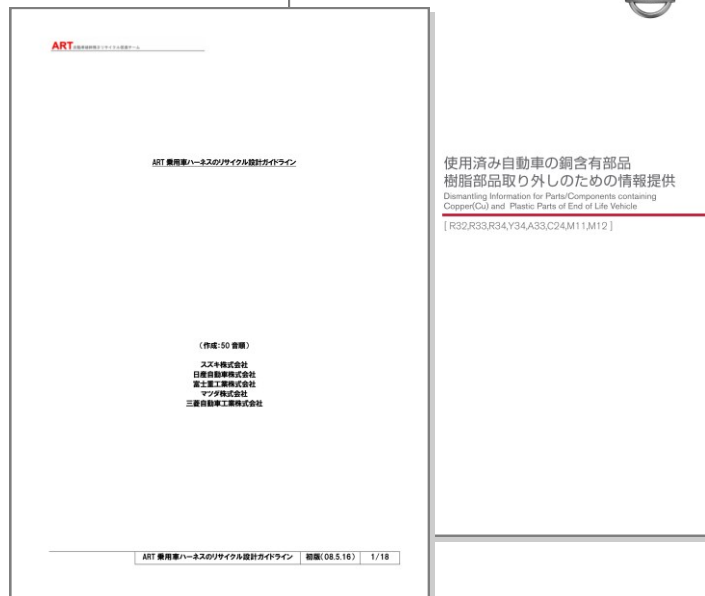
<http://www.asrrt.jp/service/elv/index.html>

[※] ART：自動車破碎残さリサイクル促進チーム（Automobile shredder residue Recycling promotion Team、呼称：エイ・アール・ティー）

▼使用済み自動車の銅含有部品

樹脂部品取り外しのための情報提供

▼ハーネスリサイクル設計ガイドライン



鉄スクラップ最新情報

■ 9月第5週(26日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供: 日刊市況通信社]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



9月26日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H 2	気 配
関 東	北関東	19,000 ～ 20,000	様子見
	南関東	19,000 ～ 20,000	様子見
名古屋		19,000 ～ 19,500	様子見
関 西	大阪	19,000 ～ 20,000	様子見
	姫路	19,500 ～ 20,500	様子見

海外 アジア・トルコ両市場で続落 韓国向け米HMSはCFR221ドルに

鉄スクラップ2大市場のアジア、トルコで、鉄スクラップ価格が続落する動きとなっている。

貿易筋によると、韓国大手の現代製鉄は9月第4週(18～24日)、米HMSを1トあたりCFR221ドルで成約した。9月第3週(11～17日)時点のロシアA3の成約価格CFR230ドル前後に比べて約10ドルの値下がりだ。また、台湾筋は9月第4週、コンテナ輸送の米HMSをCFR195～200ドルで成約。200ドルを割り込む動きとなった。

さらにトルコの輸入価格も続落した。9月第4週末時点のトルコの米HMS輸入価格はCFR210ドル弱、欧州のHMSはCFR200ドル強となり、それぞれ9月第3週末から10ドル強の値下がりとなっている。

原料炭が急騰する動きとなっているものの、鉄鉱石や鋼材・半製品価格などが下落しており、こうした動きが鉄スクラップ価格に波及している。日本産鉄スクラップは、連休などで9月中旬から下旬にかけて新規輸出商談が進んでいないが、今後の輸出価格に影響が出そうだ。

【関東地区】電炉筋の購入価格値下げ散発生産水準低く

関東市場では、電炉筋の鉄スクラップ購入価格の値下げ改定が散発している。浜値が先行して値下がりし、電炉買値が高値圏にとどまっているため、調整値下げ、ジリ安の動きとなっている。ただ、大勢は様子見姿勢を続けている。市中スクラップの荷動きは引き続き鈍く、入荷状況はバラついたままだ。H2炉前実勢価格は1トあたり19,000～20,000円中心。H2浜値は18,500円中心。中心値としては様子見横ばいの推移。

【東海地区】月末環境控え荷動き順調も価格は模様眺め

名古屋地区の鉄スクラップ市況は様子見横ばい。海外市況の弱気配に為替の円高傾向などから、輸出の先行き不透明感もあり、業者筋の多くは出荷を進める動きだ。また月末環境を控えているため、9月最終週の荷動きは上向き気配の見方が大勢。電炉間には、一部の在庫が減少した筋は補充への動きも見られる。ただ調達を強めるほどの動きには至っておらず、購入価格は据え置きで模様眺め。H2炉前実勢価格は19,000～19,500円中心。

【関西地区】様子見継続、海外回復の兆し見えず先行きに不透明感

大阪地区の鉄スクラップ市場は、模様眺めが続いている。電炉の10月生産は9月比で増加する見通しで、さらに共同輸出船積み控えがあり、需給環境の崩れは考えにくい展開だ。しかし国内の需要ピークが過ぎた上、海外市況の回復の兆しも見えてこない中、国際対比で日本玉の割高感が強く、先行き不透明感が漂い始めている。H2炉前実勢価格は19,000～20,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は19,500～20,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月26日午後時点のもの)

行事予定



10月の主な予定

10月6日(木)～7日(金)

●自動車リサイクル士制度認定講習会 仙台会場

10月13日(木)

●自動車リサイクル士制度認定講習会 東京会場 リハーサル
(関東ブロック)

10月19日(水)

●第7回 広報部会

10月21日(金)～22日(土)

●未来部会 事業所見学会



お知らせ

◆会員数(2016年9月末日時点)

総数 560社 / 会員 534社、賛助会員 26社

◆自動車リサイクル士ページリニューアル

ELV機構ホームページの「自動車リサイクル士」のページをリニューアルしました。

今年度(2016年4月1日)から施行開始となった新制度の内容に合わせて、“そもそも自動車リサイクル士って何?”といった根本的な疑問にもお答えできるようにメニューも一新しています。



★皆様ぜひチェックしてみてください★

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

<http://www.elv.or.jp/35-87-0.html>

編集後記

9月24日に東北ブロック恒例の地域団体交流会が青森で開催されました。今年も充実した内容で、特に講演会では久々に元気を貰いました。▼演者は、株式会社南部美人五代目蔵元の久慈浩介社長、昭和47年生まれの42歳の社長です。そのバイタリティーたるや卓越したものがあります。日本酒ブームが陰り、多くの作り酒屋が廃業する中、新たな市場を海外に求め、酒瓶を片手に己の足で市場を開拓していきます。その行動力は半端でない。やがて努力が結実し、いまや世界各国で「南部美人」が痛飲されています。▼「死中に活を求める」とは、まさしくこのことを言うのでしょうか。いま我が業界も八方塞がりとも言える状況に瀕しています。しかし逆境は新たな市場を創るチャンスでもあると大いなる勇気を貰いました。▼訃報が届きました。去る9月15日、仙台市の(株)三森コーポレーション代表取締役(株式会社JARA専務取締役)守屋隆行氏が逝去されました。享年58歳という若さでした。自動車リサイクル業界に多大なる影響を与えられた守屋氏に心からご冥福をお祈り申し上げます。

(広報部会 部会長 永田 則男)



ELV機構Facebook

日々の活動の様子をタイムリーに、写真つきで確認できます。(以下のURLをクリック!)

<https://www.facebook.com/JAERA.office/>